

方針 7 青年の要求に応えた音楽づくり、青年サークルづくりを積極的にすすめ、21世紀を担う青年をたくさん迎える

〔青年のうたごえ〕

この間、着実に経験を重ね、盛り上がりを見せてきた青年のうたごえは、一つの成果として「全国青年のうたごえ祭典」を開催、19都道府県から約150人の青年が参加し、分科会、合唱発表会、大音楽会を通して様々な学習と交流を実践した。ふくい・北陸祭典の青年ステージ成功を視野に入れた取り組みは、全国合唱発表会へ3団体を推薦できたことも含め成果を上げた。「全県からの参加」「うたごえ以外の団体の青年との共同」「この間うたごえから離れてしまった青年の掘り起こし」をめざし、積極的な働きかけを行った結果、青年のうたごえがない県からの参加や、多くの団体との新たなつながりが生まれたことは大きな成果であり、さらに発展させていくことは大切になっている。

ふくい・北陸祭典に向けては、早くから開催地福井と連携して取り組み、創作活動でも祭典テーマ曲「あったかいうた」などを生み出した。数年ぶりに現地実行委員会「おでん部」が発足し、積極的な組織活動を展開、祭典本番は福井から70人以上がステージにあがった。「おでん部」はサークルとして継続した活動をめざしている。

広島で行われた原水爆禁止世界大会では、昨年同様、企画段階からかわり、青年の広場パート2「MATSURIだワッショイ」を演出。最後には青年全員で「ピース・サイン」を歌い、踊りかわした。

「引きこもり」「ニート」「ワーキングプア」などの言葉が普段の会話に頻繁に登場するように、青年を取り巻く状況が更に深刻になっている今、「人間らしく、自分の仕事に誇りを持って働きたい」という、青年たちの怒りが各地で起こり、その中でうたごえも響きわたった。中央メーデーでは「青年のステージ」が取り組まれ、労働組合や民主団体の青年にも参加をよびかけた青年の合同合唱が実現した。京都では青年の働く権利を求める「円山青年一揆」のなかで、実行委員会にも積極的に参加しながら、創作曲「あきらめない」が誕生、参加者を大いに励ます一曲となった。

東海青年のうたごえと、東京のにんたま合唱部がそれぞれ初のコンサートを開いた。若者たちが中心の仙台合唱団のアカペラ教室もクリスマスコンサートを開いている。

うたごえ新聞紙上では、記者が取材をする形態の「YOUTH STATION」から、青年たち自身が記事作りをする「ゆうステ」に移行。より積極的に紙面に関わるという点で成果は大きい、「より伝わる記事に」「きれいにまとめようとせず、青年の生の意見を」という感想もあり、今後の課題は少なくない。

恒常的な情報交流としてはまだまだやり切れていない部分も多く、確実に青年が活動しているところへつながれていない弱点がある。青年だけでやろうとせず、また青年に任せきりにもせず、協議会やブロックがささえ、一緒にとりくむ機会も増やしていくことが望まれる。